

平成24年度 学校関係者評価報告

1 実施日時 平成24年12月3日（月） 17:00～

2 参加者

学校側	増田 樹郎 校長	浅井 英雄 副校長
	吉野 薫 教頭	安藤 眞樹 主幹教諭
	石原 清史 教務主任	岩瀬 竜弥 校務主任

学校関係者	地域代表	三嶋 勉 様	深津 浩 様
		奥瀬 勇作 様	牧野 典子 様（ご欠席）
	父母教師会長	江山 清 様	

3 協議内容

【児童や保護者に応える支援体制の必要性】

一人一人の子どもが、楽しく安心して学校生活を過ごすことができることを私たちは望んでいる。また、学校は子どもを安心して通わせられるという保護者との信頼関係を築いていくことが大切である。子どもの悩みや保護者の悩みを積極的に聞き、解決のために全校体制で取り組んでいく必要がある。

本校の子どもたちは、明るく、活発に学校生活を送っているように見える。しかし、仲間と良好なかかわりができていないと考えている子どもも、少なからずいることが今回のアンケートからわかった。また、保護者においても、子どもに対する悩みや親子関係の悩み等を抱える方がいる。学校として、子どもたちや保護者が気軽に相談できる体制をつくっておくことが大切である。



改善策①

「スクールカウンセラーやアイリスパートナーの運用の充実」

- ・通信や掲示を活用し、アイリスパートナーの活動を全校に周知する。
- ・学年主任，担任とスクールカウンセラー，アイリスパートナーとの連携を充実させるにあたり，報告用紙の活用や情報の電子化（セキュリティの保証を含め）による共有化した後，情報交換の場を明確に位置づける。
- ・相談室の環境整備などを進め，効果的な運用を図る。
- ・特別支援教育推進委員会を中心に，大学の関係機関や地域の診療・相談機関とも連携を模索し，より効果的な運用を協議・実践する。

【基礎的な知識や技能に支えられる問題解決的な学習】

子どもたちは問題を解決していく過程において、知識や技能を獲得していく。しかし、解決に向かうためには、基礎的な知識や技能の習得が必要となる。基礎的な知識や技能を身につけさせ、自信をもって、問題解決に向かわせていきたい。

【情報教育の推進の必要性】

情報収集はコンピュータの普及に伴い、とても容易になっている。また、情報は一方的に発信されているため、情報をどのように理解し、どのように利用していくかは、情報の受信者に任されている。情報を発信する場合には、情報モラルの点から、子どもたちが身につけるべき力が多くある。



改善策②

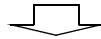
基礎的な知識や技能の習得と情報教育の取り組み改善

- ・あおいタイムの充実及び、授業でも基礎的な知識・技能の習得を図る時間を確保するとともに、その成果を児童自身や保護者が確認できる機会を設ける。
- ・全国学力状況調査の結果を保護者会などで伝える。
- ・自分の必要な情報を効率的に得たり、共有したり、発信したりする情報教育の考え方を教師が共通理解し、毎日の授業と結びつけながら指導にあたる。
- ・授業参観等でコンピュータを活用する授業を公開する。

【食を通して自らの健康を管理できる子ども】

子どもたちの給食の実態をみると、簡単に給食を残したり、偏った栄養摂取をしている子どもがいる。しかし、栄養士さんは、栄養バランスや歯の成長、地域食材の活用など、毎日の献立に意図をもって作ってくださっている。

常に温かい給食を取っている子どもたちは、給食を作ってくれている人への感謝の気持ちは忘れてはいない。しかし、給食を通して自らの健康を考えたり、食材と地域とのつながりを考えたりするなどの子どもの姿はあまりない。食育の生きた教材として自校給食の活用を検討していく必要がある。



改善策③

「自校給食による食育の充実」

- ・給食委員会の活動を充実させ、給食を通して自分たちの健康を考えることができる機会を設ける。
- ・食育を学ぶ場を設定し、栄養士さんや調理員さんが参加できる授業を運営を検討する。
- ・作業的内容や活動的な内容において積極的にコンピュータを活用する。

【清掃活動の充実を柱に子どもたちの生活を見つめさせる】

これまでも子どもたちの清掃活動への取り組みが問題になってきた。昨年より教師自ら、率先して清掃活動に取り組むことで、子どもたちが意欲的に清掃活動に取り組む姿を目にするようになってきた。子ども一人一人に目を向けると、短い清掃時間のなかでも、毎日目的をもって取り組む姿がある。本年度は、92%の子どもが清掃活動におおむねまじめに取り組んでいると評価している。しかし、保護者とのずれ感は大い。取り組む質の向上が求められている。

清掃活動の必要性を子どもたちに考えさせ、常に目的をもって取り組む子どもが育てば、清掃活動だけでなく、学校生活全般にも大きく影響してくると考える。



改善策④

「清掃活動を柱として、子どもたちの基本的生活習慣を育む」

- ・学級や児童会活動を通して、清掃活動の意味や必要性を考えることができる子どもを育てていく。
- ・附ぞくっ子タイムなどで、よりよい指導のあり方を互いに学び合う。
- ・学級のみでの清掃活動への取り組みを見直し、常時ペア清掃活動など新たな取り組みを講じていく。
- ・親子清掃活動など、PTAと協力しながら、清掃活動に積極的に取り組む態度を培う。